

NEWS LETTER

14時30分解禁

平成26年8月 全国百貨店売上高概況

平成26年9月19日

I. 概況

1. 売上高総額	4,272億円余
2. 前年同月比	-0.3% (店舗数調整後／5か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	84社 241店 (平成26年7月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,141,069m ² (前年同月比：-1.5%)
5. 総従業員数	79,195人 (前年同月比：-3.2%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	1-3月 11.0%、2-4月 6.5%、3-5月 4.1%、 4-6月 -6.9%、5-7月 -3.7%、6-8月 -2.6%

[参考] 平成25年8月の売上高増減率は2.7% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

天候不順の影響で5か月連続のマイナスとなったが、減少幅は-0.3%と前月(-2.5%)から2.2ポイント改善して、ほぼ前年並みの水準まで戻してきた。消費税率引上げによる駆け込み需要の反動は、地域によって若干の差異はあるものの、着実に回復基調が続いている。

本年8月は、上旬に2つの台風(11号・12号)が相次いで接近・上陸したほか、西日本を中心に各所で大雨となるなど不安定な天候の影響を受け、月の前半では低調に推移したが、各店が集客・販促施策を積極展開したことや、下旬からの気温低下で秋物需要が盛り上がったこと、更には前年に比べて日曜日が一日増加したことなどもあって、月の後半から増勢を強め、最終的には前年実績に迫る水準まで回復する結果となった。これにより本年1月-8月累計売上高は、4兆246億円余(前年同期比:店舗数調整後+1.3%/店舗数調整前+0.8%)となった。

地区別では、前年実績をクリアした6地区(東京+1.3%、大阪+2.5%、横浜+0.8%、神戸+0.5%、福岡+2.4%、四国+0.2%)が寄与して、大都市(10都市:+0.5%)が税率引上げ後初めてプラスとなった一方、地方(10都市以外:-1.9%)も前月(-4.9%)から3ポイント改善し回復テンポを高めている。

商品別には、主要5品目の内、ラグジュアリーブランド等の特選雑貨が好調な「身のまわり品(+1.6%)」と、前月から活況が続く化粧品(+4.1%)やフェア企画で復調が鮮明な高級時計を含む「雑貨(+0.8%)」がプラスとなったほか、秋物のプロパー商材(定価品)が良く動いた「衣料品(-1.2%)」や「食料品(-0.6%)」も堅調に推移した。

訪日外国人売上高は、中華圏(中国、台湾等)とアセアン(タイ、シンガポール等)を中心に、韓国も復調して、売上高(+41.3%)・購買客数(+53.9%)共に大幅増(19か月連続プラス)となり、8月として過去最高の売上高(約47億円)を記録するなど、引き続き大都市の商況を底上げしている。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「8月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 太平洋高気圧が弱く、湿った気流の影響で日照時間は少なく低温で推移した。また、台風11号・12号が相次いで接近・上陸したため各地で大雨となった。特に西日本では降雨量が平年比301%と統計開始以来最高値を記録した。

(2) 営業日数増減 30.6日 (前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日 (〃 +1日/日曜1日増)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数135店舗)
①増加した: 32店、②変化なし: 34店、③減少した: 69店

(5) 8月歳時記(旧暦お盆、夏休み、夏祭り)の売上 (同上/有効回答数104店舗)
①増加した: 19店、②変化なし: 54店、③減少した: 31店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2014年08月

第1表 地区分別売上高

地区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全国	427,237,649	100.0	-0.3 (-0.4)
10都市	287,235,979	67.2	0.5
札幌	11,352,005	2.7	-0.5
仙台	5,850,079	1.4	-1.5
東京	105,535,021	24.7	1.3
横浜	25,416,923	5.9	0.8
名古屋	26,158,557	6.1	-1.3
京都	17,908,591	4.2	-7.5
大阪	59,327,290	13.9	2.5
神戸	11,413,623	2.7	0.5
広島	9,511,463	2.2	-1.9
福岡	14,762,427	3.5	2.4
10都市以外の地区	140,001,670	32.8	-1.9 (-2.2)
北海道	2,360,659	0.6	-2.3
東北	7,616,136	1.8	-0.2
関東	64,558,451	15.1	-2.9 (-2.7)
中部	10,875,628	2.5	-2.3
近畿	15,118,967	3.5	-1.3
中国	10,026,973	2.3	-2.1
四国	6,813,386	1.6	0.2 (-8.0)
九州	22,631,470	5.3	-0.1

第2表 商品別売上高

商品別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総額	427,237,649	100.0	-0.3 (-0.4)
紳士服・洋品	22,300,487	5.2	1.5 (1.3)
婦人服・洋品	82,443,545	19.3	-2.4 (-2.6)
子供服・洋品	9,014,095	2.1	3.5 (3.3)
その他衣料品	11,058,134	2.6	-0.4 (-0.6)
衣料品	124,816,261	29.2	-1.2 (-1.3)
身のまわり品	55,302,573	12.9	1.6 (1.5)
化粧品	27,124,336	6.3	4.1 (4.0)
美術・宝飾・貴金属	21,785,178	5.1	-4.2 (-4.5)
その他雑貨	19,101,848	4.5	2.3 (2.1)
雑貨	68,011,362	15.9	0.8 (0.6)
家具	5,605,353	1.3	-10.8 (-11.0)
家電	1,195,600	0.3	4.7 (4.6)
その他家庭用品	14,733,688	3.4	0.6 (0.6)
家庭用品	21,534,641	5.0	-2.4 (-2.5)
生鮮食品	26,620,064	6.2	-1.9 (-1.9)
菓子	37,008,048	8.7	-0.1 (-0.1)
惣菜	28,753,269	6.7	0.4 (0.5)
その他食料品	34,134,745	8.0	-0.9 (-0.9)
食料品	126,516,126	29.6	-0.6 (-0.6)
食堂喫茶	16,536,610	3.9	-2.8 (-3.0)
サービス	5,575,817	1.3	-0.9 (-0.9)
その他	8,944,259	2.1	5.2 (5.1)
商品券	10,894,061	2.5	-4.0 (-4.0)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

II. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 0.5% (5か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -1.9% (店舗数調整後／5か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	0.5	0.3	5か月ぶりプラス
札幌	-0.5	0.0	5か月連続マイナス
仙台	-1.5	0.0	5か月連続マイナス
東京	1.3	0.3	5か月ぶりプラス
横浜	0.8	0.0	5か月ぶりプラス
名古屋	-1.3	-0.1	5か月連続マイナス
京都	-7.5	-0.3	5か月連続マイナス
大阪	2.5	0.3	2か月連続プラス
神戸	0.5	0.0	5か月ぶりプラス
広島	-1.9	0.0	5か月連続マイナス
福岡	2.4	0.1	5か月ぶりプラス
10都市以外の地区	-1.9	-0.6	5か月連続マイナス
北海道	-2.3	0.0	5か月連続マイナス*
東北	-0.2	0.0	5か月連続マイナス*
関東	-2.9	-0.5	5か月連続マイナス
中部	-2.3	-0.1	5か月連続マイナス
近畿	-1.3	0.0	5か月連続マイナス
中国	-2.1	-0.1	5か月連続マイナス*
四国	0.2	0.0	5か月ぶりプラス
九州	-0.1	0.0	5か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

News LETTER

III. 商品別の動き

主要5品目は、身のまわり品と雑貨が5か月ぶりにプラスとなった。また、その他の3品目も改善を見せた。化粧品と家電が2か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他雑貨、その他家庭用品、惣菜が5か月ぶりにプラスとなった。その他では、家具が先月よりマイナス幅を広げた以外は先月の伸びを上回った。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.3	-	5か月連続マイナス
紳士服・洋品	1.5	0.1	5か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-2.4	-0.5	5か月連続マイナス
子供服・洋品	3.5	0.1	5か月ぶりプラス
その他衣料品	-0.4	0.0	5か月連続マイナス
衣料品	-1.2	-0.3	5か月連続マイナス
身のまわり品	1.6	0.2	5か月ぶりプラス
化粧品	4.1	0.3	2か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-4.2	-0.2	5か月連続マイナス*
その他雑貨	2.3	0.1	5か月ぶりプラス*
雑貨	0.8	0.1	5か月ぶりプラス
家具	-10.8	-0.2	5か月連続マイナス
家電	4.7	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	0.6	0.0	5か月ぶりプラス
家庭用品	-2.4	-0.1	5か月連続マイナス
生鮮食品	-1.9	-0.1	5か月連続マイナス*
菓子	-0.1	0.0	3か月連続マイナス*
惣菜	0.4	0.0	5か月ぶりプラス*
その他食料品	-0.9	-0.1	5か月連続マイナス*
食料品	-0.6	-0.2	5か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.8	-0.1	5か月連続マイナス
サービス	-0.9	0.0	3か月連続マイナス
その他	5.2	0.1	3か月連続プラス
商品券	-4.0	-0.1	42か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成26年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年9月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,055億円余
2. 前年同月比	1.3% (5か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭1.4%(89.0%)：非店頭0.7%(11.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年7月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,760m ² (前年同月比：-2.2%)
6. 総従業員数	19,039人 (前年同月比：-0.5%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	1-3月 12.3%、2-4月 7.1%、3-5月 4.3%、 4-6月 -6.3%、5-7月 -3.2%、6-8月 -1.6%

[参考] 平成25年8月の売上高増減率は5.6% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

- (1) 東京地区でも天候不順の影響を受けたが、各店が積極的に展開した集客施策が奏功して、入店客数はほぼ前年並みと堅調に推移した。その結果、売上高についても、消費税率引き上げ後初めて前年実績を上回ることとなった。
- (2) 主力の衣料品 (+1.5%) は、下旬からの気温低下を受けて秋物が急伸し、5か月ぶりにプラスとなった他、食料品 (+0.3%) も物産催事などが好調で前年をクリアするなど、ほぼ全ての商品分野で7月の伸び率を上回り、全国に先駆ける形で回復基調を鮮明にした。
- (3) 都内各店における訪日外国人の動向は、8月も全国平均以上に好調に推移し、「化粧品 (+8.0%)」やラグジュアリーブランドを含む「身のまわり品 (+4.7%)」の売上を押上げる要因となった。
- (4) 夏のクリアランスセールは、6月～8月の通期で前年実績を若干下回る結果となった。また、中元商戦については、店頭受注が前年を下回る一方、ネット受注がカバーする構図の中、通期業績では、ほぼ前年並みの結果であった。
- (5) 東京地区の9月中旬段階(9月16日)までの商況は、前月下旬からの衣料品を中心とした秋物商材の好調さを維持して、前年比3%強のプラスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.6日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数19店舗)
 ①増加した：10店、②変化なし：4店、③減少した：5店
- (3) 8月歳時記(旧暦お盆、夏休み、夏祭り)の売上 (同上／有効回答数12店舗)
 ①増加した：6店、②変化なし：5店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総額	105,535,021	100.0	1.3
紳士服・洋品	6,923,651	6.6	5.5
婦人服・洋品	18,354,070	17.4	-0.4
子供服・洋品	1,812,857	1.7	5.8
その他衣料品	2,336,249	2.2	2.2
衣料品	29,426,827	27.9	1.5
身のまわり品	15,332,143	14.5	4.7
化粧品	6,996,756	6.6	8.0
美術・宝飾・貴金属	6,976,594	6.6	-5.3
その他雑貨	5,822,413	5.5	2.1
雑貨	19,795,763	18.8	1.3
家具	1,503,808	1.4	-16.3
家電	635,725	0.6	16.1
その他家庭用品	3,958,910	3.8	4.6
家庭用品	6,098,443	5.8	-0.5
生鮮食品	4,487,263	4.3	-0.1
菓子	7,928,513	7.5	0.1
惣菜	6,403,946	6.1	1.3
その他食料品	7,684,551	7.3	-0.0
食料品	26,504,273	25.1	0.3
食堂喫茶	3,571,582	3.4	-1.1
サービス	2,386,889	2.3	2.3
その他	2,419,101	2.3	-1.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	1,977,263 千円	-2.7
従業員数	19,039 人	-0.5
店舗面積	856,760 m ²	-2.2

営業日数	30.6 日	前年	30.6 日
-------------	--------	----	--------

II. 商品別の動き

主要5品目は、先月は身のまわり品が唯一プラスに転じたが、今月は身のまわり品が2か月連続、衣料品、雑貨、食料品が5か月ぶりにプラスと、家庭用品を除く4品目がプラスとなった。紳士服・洋品、子供服・洋品、その他衣料品、化粧品が2か月連続、菓子が2か月ぶり、その他雑貨、家電、その他家庭用品、惣菜が5か月ぶりにプラスとなった。また、その他食料品も-0.0%と前年並みとなった。その他では、全国同様家具が先月よりマイナス幅を広げた以外は先月の伸びを上回った。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.3	—	5か月ぶりプラス
紳士服・洋品	5.5	0.3	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.4	-0.1	5か月連続マイナス
子供服・洋品	5.8	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	2.2	0.0	2か月連続プラス
衣料品	1.5	0.4	5か月ぶりプラス
身のまわり品	4.7	0.7	2か月連続プラス
化粧品	8.0	0.5	2か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-5.3	-0.4	5か月連続マイナス*
その他雑貨	2.1	0.1	5か月ぶりプラス*
雑貨	1.3	0.2	5か月ぶりプラス
家具	-16.3	-0.3	5か月連続マイナス
家電	16.1	0.1	5か月ぶりプラス
その他家庭用品	4.6	0.2	5か月ぶりプラス
家庭用品	-0.5	0.0	5か月連続マイナス
生鮮食品	-0.1	0.0	5か月連続マイナス*
菓子	0.1	0.0	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.3	0.1	5か月ぶりプラス*
その他食料品	-0.0	0.0	5か月連続マイナス*
食料品	0.3	0.1	5か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.1	0.0	5か月連続マイナス
サービス	2.3	0.1	2か月ぶりプラス
その他	-1.6	0.0	2か月ぶりマイナス
商品券	-2.7	-0.1	40か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品について2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>